

「高齢者住宅新聞」2012年7月15日号に インディペンデンスヴィレッジ成城西の連載 第3回目が掲載されました。(全6回)

今回は櫻井茂様と桑原清様へのインタビューです。

第3回 男性の一人暮らし

櫻井茂さん(83歳)は、大阪で生まれ育った。人生の約半分を東京で過ごしてきたが、いまだに「関西弁が抜けない」と笑う。



大阪発祥の大手スーパーマーケットの創業、新規立ち上げや関東圏での事業拡大に尽力してきた。大阪に自宅を持っていたが、転勤が多く単身赴任生活も長かった。東京にも住まいを持ち、妻や古くからの友人がいる大阪と東京を往復する生活が続いた。

60歳で会社を退職した後「麻雀が好きで、多いときには月の半分は大阪で過ごしていた。単身赴任で一

を楽しみ、翌日は昼前に起きて活動を開始する。そんな生活が何年か続いた。

しかし突然、心筋梗塞の発作が起き、大病院への入院を経験。77歳での出来事だった。再発の恐れも付きまとう。「いつ死ぬかわからん」と、初めて悠々自適な生活を見直すことになった。

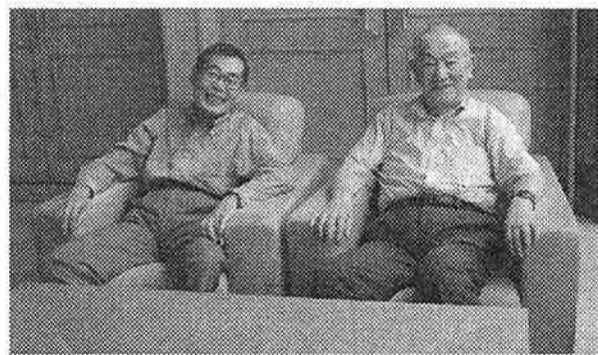
人暮らしが長かったし、妻と離れて生活するというのは別に普通や」。一人暮らしの時も、自炊は一度もしたことがない。好きなものを食べたい時に食べられる外食が習慣だった。

東京の品川にある有名ホテルでのディナーが特に好きだった。リタイアしてからは、夜中まで食事やお酒

ちょうど、外食にも飽きてきたころ。「食事が付いていて人が多いところ」を条件に、本格的に住み替えを考え始めた。6年前、偶然立ち寄った不動産店舗に貼られていたポスターからこのマンションを知り、その日のうちに見学。

「食事が付き、有料老人ホームのように入居一時金

条件は「食事付きマンション」



櫻井茂さん(83)
桑原清さん(78)

がなくて買い取りができる分譲マンションだったからすぐに入居を決めた」。

「住まいの環境を変えたらどうですか」。

桑原清さん(78歳)は妻を看取った後、住職に言われたこの言葉がきっかけで、一人で暮らす自宅からこのマンションに引っ越してきた。

「妻ががんで2年間闘病生活をしている頃は、自炊もしないためあまりものを食べなかった」

桑原さんが入居したのは今から約6年前だが、マンションの購入はさらに2年前。妻のがんが発覚し、このまま自宅での生活は続けられないと住み替えを考えられた。結果的にはばらばらになってしまった。

「住まいの環境を変えたらどうですか」。

入居前と入居後に最も変わった点を尋ねると、2人は「食事の心配がいらぬ。栄養士が献立を作るのも安心。時間内に食事を済ませるため、規則正しい生活になった」と明る。

現在、櫻井さんも桑原さんも一人暮らし。自身の健康管理に気を遣うようになった。

【取材協力】インディペンデンスヴィレッジ成城西
東京都狛江市。生活支援付きの高齢者向け分譲マンションとして平成15年に竣工。全68戸。

※毎月15日号に連載します。